

1997年(平成9年)11月6日 木曜日

(3)☆

(英3種郵便物誌可)

福祉に全力投球

②

「もう選挙へは出ない」
 辞職するのは言語道断と
 反対されるに決まってい
 テムの普及を目指して、
 藤沢市会議員を辞め、リ
 ハビリエイドを設立する
 決意をした滝沢。家族も
 その熱意に押され、解し
 てくれた。しかし、日
 るから自分を支援してく
 れる仲間には、口が裂け
 ても「議員を辞める」な
 どと言えなかった。

「何の実績もない人間
 が新しいリハビリシステ
 ムを普及するなど無謀た
 し、そんなことで議員を

「何の実績もない人間
 が新しいリハビリシステ
 ムを普及するなど無謀た
 し、そんなことで議員を

決意を誰にも言えず

年、複数の議員の輩出を
 目指して「藤沢の夢を語
 る会」を結成、見事次の
 選挙には自分に代わり、
 二人の候補者を擁立、当
 選させた。



政治の世界に
 終止符を打った
 滝沢が最初に開
 発に着手したの
 は、トーリフタ
 神経炎などが原
 因で下肢筋力が
 低下し、下垂足
 の状態になった
 人に装着させる
 簡便な歩行補助
 装置で、製品は
 九二年に完成した。しか
 し、結局厚生省から歩行
 補助装置として認定が得
 られぬまま計画はとん挫
 する。

政治の世界に
 きの四輪歩行器の開発を
 考えた。歩行器によって
 多くの人が歩くようにな
 った実績からすれば、す
 ぐにも製品化したかった
 が、歩行器は危険とい
 う世間の常識から、開発を
 止めてきた経緯がある。
 しかし、ある日思いもよ
 らぬところから助け舟が
 現れた。

滝沢はこの時、ソリ付

道

535

(敬称略)